

288.41
G56Kg

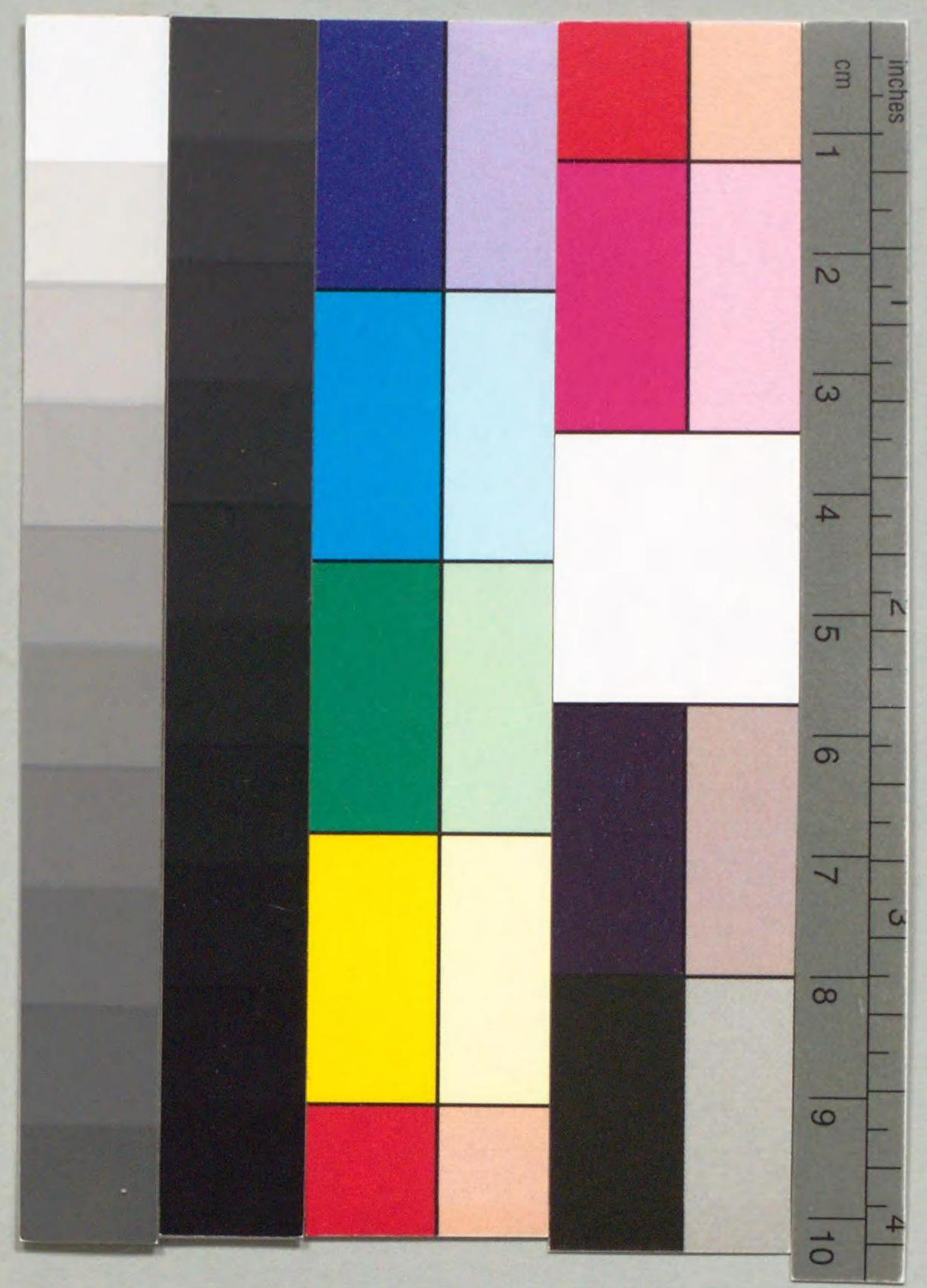


00456104

Blank label area with horizontal dashed lines for text entry.

国立国会図書館

200.11
G56Kg





29-83



昭和十三年 自六月一日
至六月十五日

後醍醐天皇宸翰拜展目錄

恩賜京都博物館

288.4
G56K

288.4/
G51Kg



456104

凡 例

- 一 後醍醐天皇延元四年吉野の行宮に於て崩御遊ばされてより、本年は恰も六百年目に相當してゐるので、天皇の御聖徳、中興政治の御鴻業を偲び奉り、國民精神作興に資する爲本拜展を催した。
- 一 後醍醐天皇宸翰と稱せらるゝものゝ中、こゝには御眞蹟とすべき徴證の確かなるものばかりを謹蒐した。
- 一 天皇の宸影は大徳寺、清淨光寺、廬山寺、吉野神宮等に所藏されてゐるが、今回全部を掲げ奉ることが出来たことは本館の光榮とするところである。
- 一 天皇の皇子 後村上天皇宸翰、護良、宗良、懷良各親王の御筆蹟をも併せて奉掲することゝした。
- 一 目録の順序は年代順により、年時不明のものは、それに相當すると思はれるところに置いた。
- 一 本文の讀本を附して拜讀に便にしたが、古體の文字、變體假名等はすべて現在使用せられてゐる文字を用ひ、各行の字配りは本文の形に従つた。

以上

昭和十三年六月

恩賜京都博物館

○宸 影

一 國寶 後醍醐天皇御像 絹本著色

本地大サ 横 四尺三六〇
二尺五七〇

京都市 一幅 大徳寺藏

二 國寶 後醍醐天皇御像 絹本著色

本地大サ 横 三尺一二〇
一尺三二〇

神奈川縣 一幅 清淨光寺藏

三 後醍醐天皇御像 絹本著色

本地大サ 横 二尺七八〇
一尺三八〇

京都市 一幅 廬山寺藏

四 後醍醐天皇御像 絹本著色

本地大サ 横 四尺二七〇
二尺七八〇

奈良縣 一幅 吉野神宮藏

○宸 翰

五 慈道法親王御消息并天皇御返狀

紙本墨書

京都市 一幅 堀部功太郎氏藏

本地大サ 横 一尺〇六〇
一尺六九〇

(前一紙缺)

候了。返々遺恨

々々候。座主被參候き。一昨日

參上之由承之候。

返々称(カ)たく存候。

必定候。只今物念之間、毎事止候了。

明後日可還御之由

還御以後委細可申旨之等候。

兼承之候。必定候哉。

旁存知仕たく候也。

此間彼勤行又忘
憑數候。他事候。千萬難盡
候間、省略仕候了。
恐惶謹言。

八月十三日 尊治 慈道

六 國寶 御消息并後宇多天皇宸翰御返狀

紙本墨書

一幅

京都市

鹿

王

院藏

本地大サ 豎 一尺〇九五
橫 一尺八七〇

- (3) 其外 誰人 (1) 以外候。公明事欲召仰之處
- (5) 別欲仰 (2) 不參追仰候ハん歟。可尋仰合候。
- (6) 然而不定 (3) 間明日出仕斟酌之由
- (7) 事候歟。 (4) 令申候。相構罷向候。以外候。如何候。大宮大納言。
- (8) 何樣可候哉。

加點候了。無爲候ハん歟。

(二) 除目折昏進

覽之候。關東任人
許任之候也。兼又
僧官所望之輩
追到來、注進之
候。恐惶謹言。

十二月廿九日 尊治

七 國寶 舍利奉請御誠文 紙本墨書

本地大サ 豎 一尺一〇〇
橫 一尺七五〇

正中元年十二月十四日
甲乙卅七粒奉請之。爲

京都市 教王護國寺藏

國家安泰弘法利生而已。所願無私。不可爲例。向後於甲者輒不可奉請。不可過乙兩三粒也。依爲天下靈寶朝家鎮護、所誠後代也。顧冥慮、敢以不可違越者矣。

八御製御懷紙 紙本墨書

本地大サ 横 一尺四五〇 二尺一五五

一幅

大阪市 男爵 鴻池善右衛門氏藏

詠七夕契久和歌

いくあきと、へにける
としはしらねとも、なを
すゑとをし、ほしあひ
のそら。

九御消息 紙本墨書

本地大サ 横 一尺一五〇 三尺五一〇

一 通 和 寺 藏

信助所望事
於大學寺領者、非
聖斷之限之間、難儀
候歟。

何事候哉。其後
不申承積鬱候。

寒中老躰窮屈
察申候。無殊事
候哉。抑灌頂、後
七日已及關如之條
返々驚思給。於後七日者
成助僧正理運候歟。
灌頂又拜堂以後
強無其煩候歟。東大寺
嗽々最中、聖尋僧正
難治之條不能子細候歟。
賢助又辭退職了。
頗以無所于沙汰候。

何とも廻遠慮、兩事
不闕如之樣計沙汰候者
可爲報國之忠候歟。偏
任賢察候也。

(御切封)

一〇 國寶 宸筆 繪旨 紙本墨書

本地大サ 横 一尺一三〇
一尺七四五

鳥根縣 出雲 大社藏

爲被用寶劍代
舊神寶內有御
劍者可奉渡者。
繪旨如此悉之。

三月十七日 左中將 (花押)
杵築社神主館

二 國寶 大德寺御置文 紙本墨書

本地大サ 横 一尺四八五
二尺八九〇

京都市 大德寺藏

大德禪寺者、宜
爲本朝無雙之
禪苑。安棲千衆、
令祝萬年。門弟
相承不許他門住。不
是偏狹之情。爲重
法流。殊染宸翰、

貽言於龍華耳。

元弘三年八月廿四日

宗峯國師禪室

三 國寶 東寺元弘三年御置文 紙本墨書

本地大サ 横 一尺一三〇
三尺三七〇

京都市 教王護國寺藏

佛舍利事

右國家鎮護之本
尊。朝廷安全之
秘術。無如此靈寶。
男女緇素輒被免
奉請之間、壺中漸

456104

滅其數。太以背大師之
冥慮。向後固可令制
禁。有利益之大願雖
令奉請、不可過三粒。
非其人而得此寶之
條、不異令赤子持
靈劍者歟。可慎々々。
努々

元弘三年九月廿二日(御花押)

三 國寶 御

願

文

紙本墨書

一卷

和歌山縣

金剛峯寺藏

本地大サ 横 〇尺五七〇

敬白

立願事

一天野社就垂跡本地、可奉甚深
法樂寺。

一行幸高野山、可興密宗事。

一爲當山佛法紹隆、興寺領可寄

田地事。

右條々天下靜謐之時、可果遂之狀如件。

延元々年十二月廿九日 天子尊治 敬白

一四 國寶

天長印信

蠟牋墨書

一卷

京都市

三寶院藏

本地大サ 横 一尺〇六〇

一三

祖師三寶院權僧正時一本寫之座右置之常爲拜見也正寫共三寶院嫡々相承大事不傳此印信輒号嫡弟者冥慮可恐々々然今上聖主誠大師再誕秘藏帝王仍爲末代法流重寶 延元四年六月十五日

今上皇帝震筆所申下也代々座主之外不可開見若違此旨宗三寶八大高祖知見證罰給勿異々々

于時延元四年六月十六日記之但一行余二十字御脫落了無念々々

醍醐寺座主大僧正法印大和尚位弘眞(花押)

同六月廿五日 後宇多院御國忌曼陀羅道師勤任之

職衆十六日同二十六日東寺座主拜任畢

一五 愛染明王像勅贊 絹本着色

一幅

本地大サ 豎 四尺〇八〇
横 三尺一〇五

東京市 根津嘉一郎氏藏

若持愛染王根本一字心

此障卽除滅
不得少親近。

卷

若纔結一

返、及誦本

眞言、能滅无

量罪、能生無量福。

一六 國寶 後村上天皇御寄進狀

紙本墨書

一通

法華經

八帖

賴寶施入狀

一卷

本地大サ

豎 一尺三一〇
横 二尺〇三〇

和歌山縣 丹生都比賣神社藏

妙法蓮華經一部、
所奉納天野社也。
此經者大師之神筆、奕
代之法寶、永爲八座
開講之本尊、須達
三庭利生之嘉會矣。

正平五年四月廿九日

(賴寶施入狀)

妙法蓮華經一部八卷高祖大師
御神筆也此御經者
後醍醐天皇御所持御經也然而花町宮
御相承賴寶自彼宮御手賜之爰奉納
天野社每年爲八講本尊期龍花三
會之曉然間參賀名字殿申請此

御經外題所被副下 勅書也仍施入之
狀如件

正平六年辛卯三月十六日法印權大僧都賴寶

一七 國寶 後村上天皇御願文 紙本墨書

本地大サ 一尺〇六〇
横 一尺六二〇

大阪府 一通
水無瀨宮藏

發願條條

一以水無瀨故宮跡、可建立
大興禪寺事。
一以水無瀨御影堂、爲社壇
獻甚深之法樂、致慇懃
之報賽矣。

一於大原法花堂、任

二〇
先皇御願條々、法樂可
果遂事。

六 國寶 護良親王御筆御祈願狀 紙本墨書

本地大サ 一尺一六〇
橫 一尺六七〇

和歌山縣 金剛峯寺藏

今度所願令成就者、於
丹生明神之寶前、以十二
禪侶、可始長日不斷之
護摩、且如舊、可專人
法佛法之紹隆、仍所立願
狀如件。

元弘貳年十二月廿五日

二品親王(御花押)

元 宗良親王御筆御消息 紙本墨書

本地大サ 一尺一五
橫 一尺七二〇

京都市 大通 德寺藏

(裏端書)

「北地事 妙法院被進 内裏御書」

善持寺事、
被仰下候之旨、
畏承候了。此上不
可有別子細候。早可
進置候。以此趣可有
披露候。

「元德元」
十一月七日 尊澄上

三〇 國寶 懷良親王御筆梵網經 紙本墨書

本地大サ 横 〇尺九八五
三五尺〇〇〇

佐賀縣 東 一卷 妙 寺藏

(御奥書)

戊午歲季春下澣_{日廿九}

遠迎靈照院禪尼之忌景、
謹書梵網經戒品之妙文。
盖聞得戒之所熟者、以
孝心爲本、佛果之勝因
者、以惣持爲最。然則依一
經之功、讚嘆之德、轉五障

之緣、登本覺之位。伏冀
三界所有之群類、同達
疾證菩提之願望矣。

懷良親王_{九拜}

2p-83

